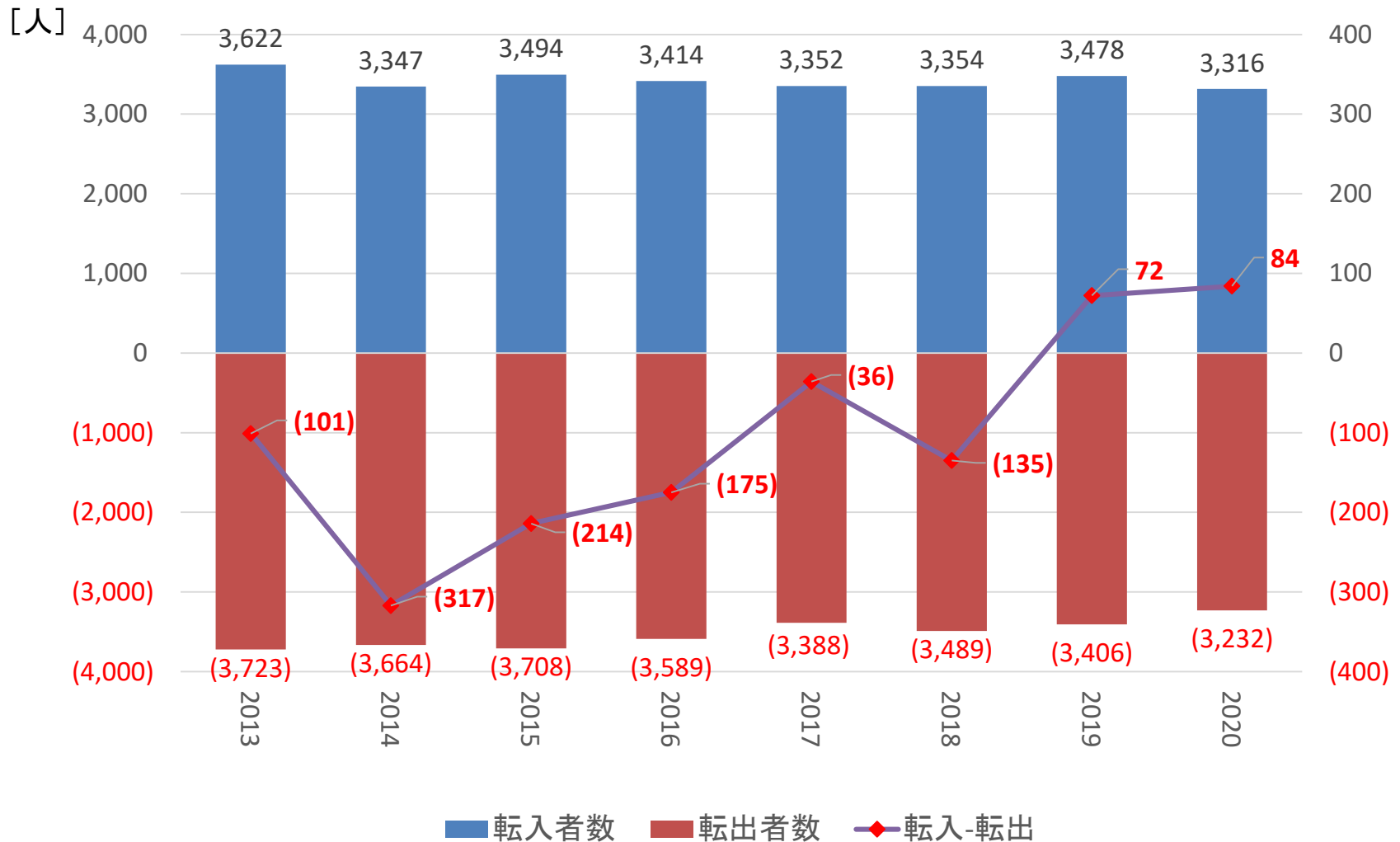


令和2年 転入転出の状況について

出典:住民基本台帳の人口移動データに基づく特別集計
(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供)

※分析にあたっては、外国人数を除外した日本人数のみの数値を採用

那須塩原市 転入者・転出者数の推移

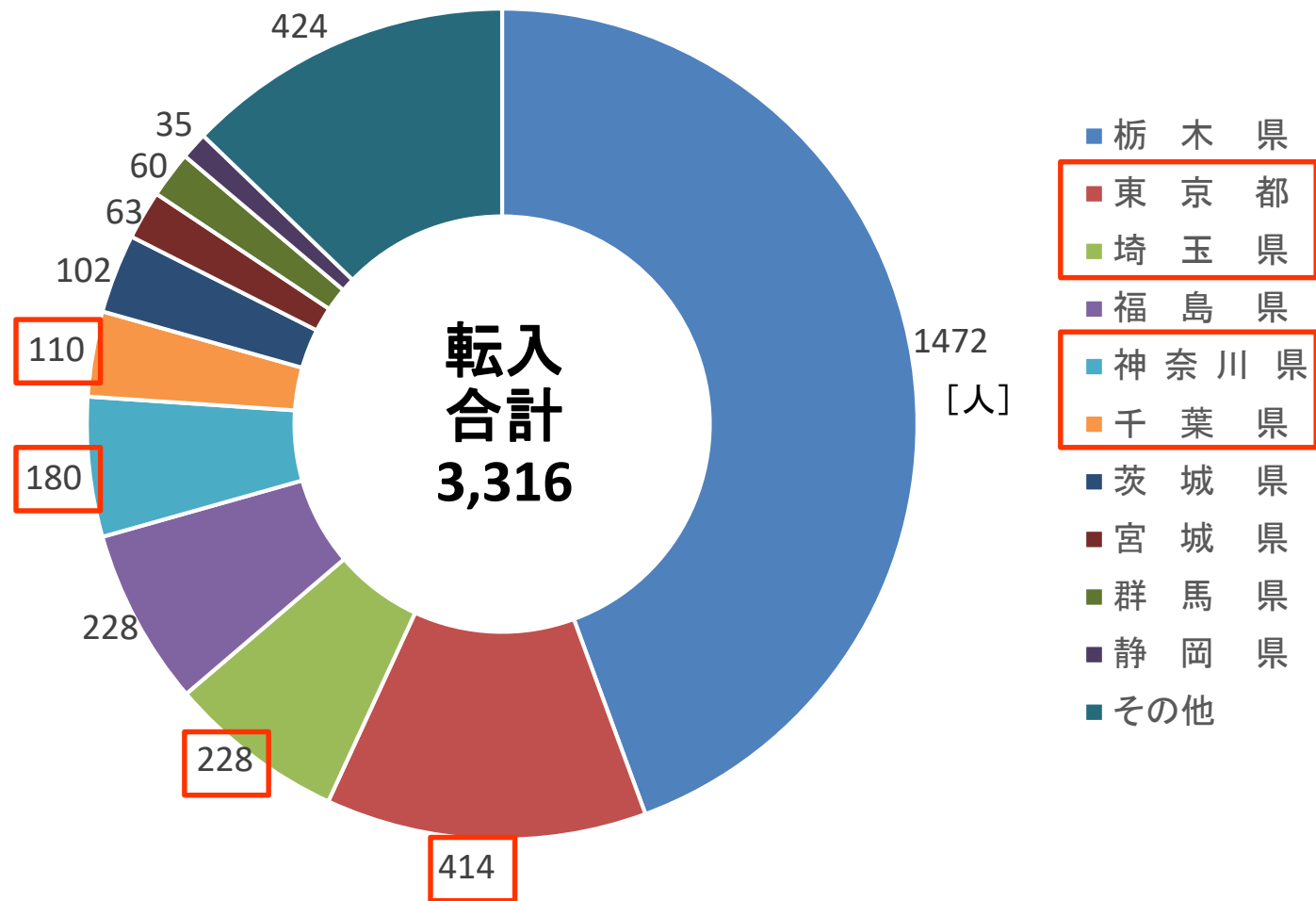


市内の社会増減は2019年からプラスに転じ、社会増となっている。

那須塩原市における転入者の移動前住所地Top10(都道府県単位)

転入

全国

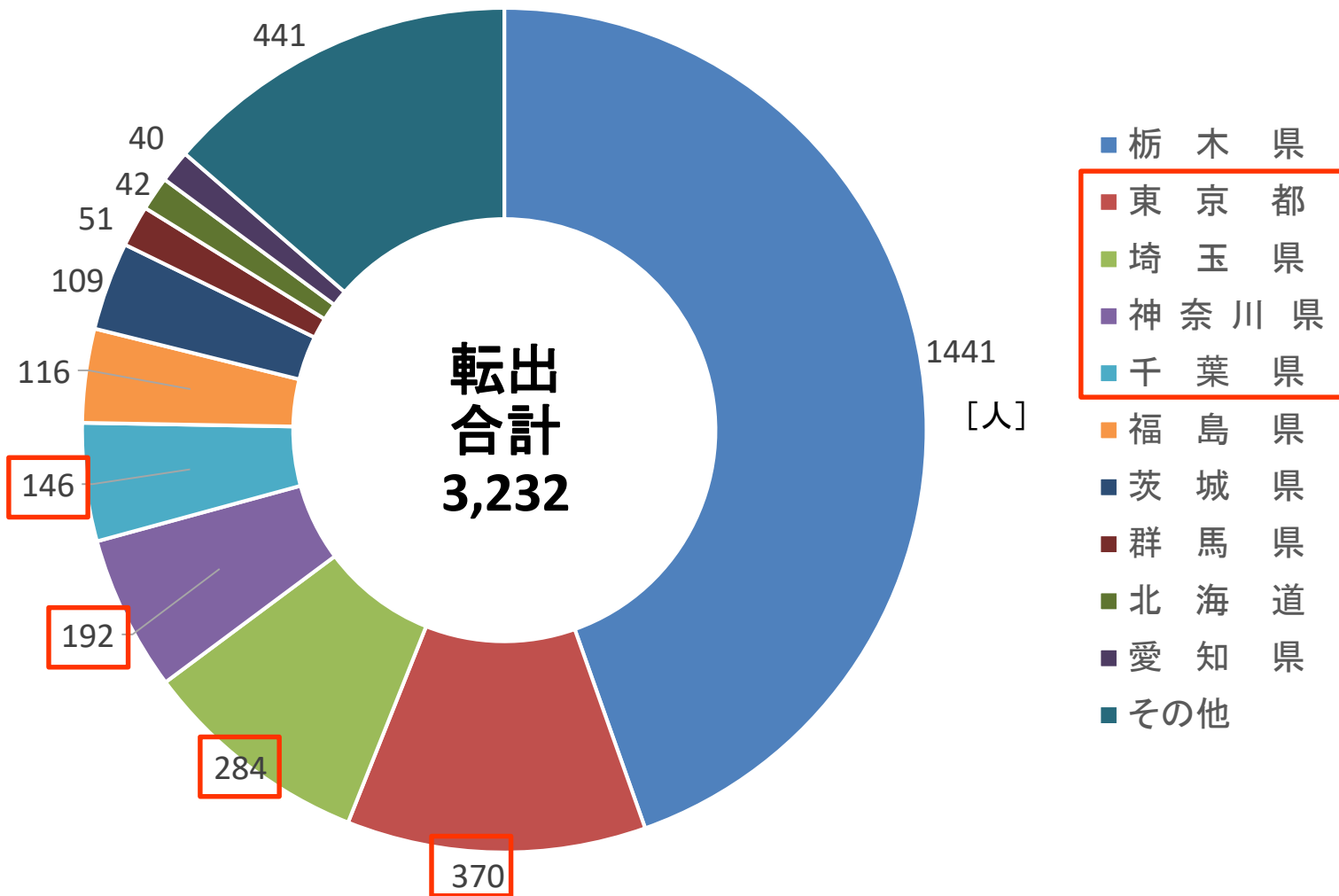


県内自治体からの転入が44.4%、県外からの転入は1都3県合計で28.1%

那須塩原市における転出者の移動後住所地Top10(都道府県単位)

転出

全国

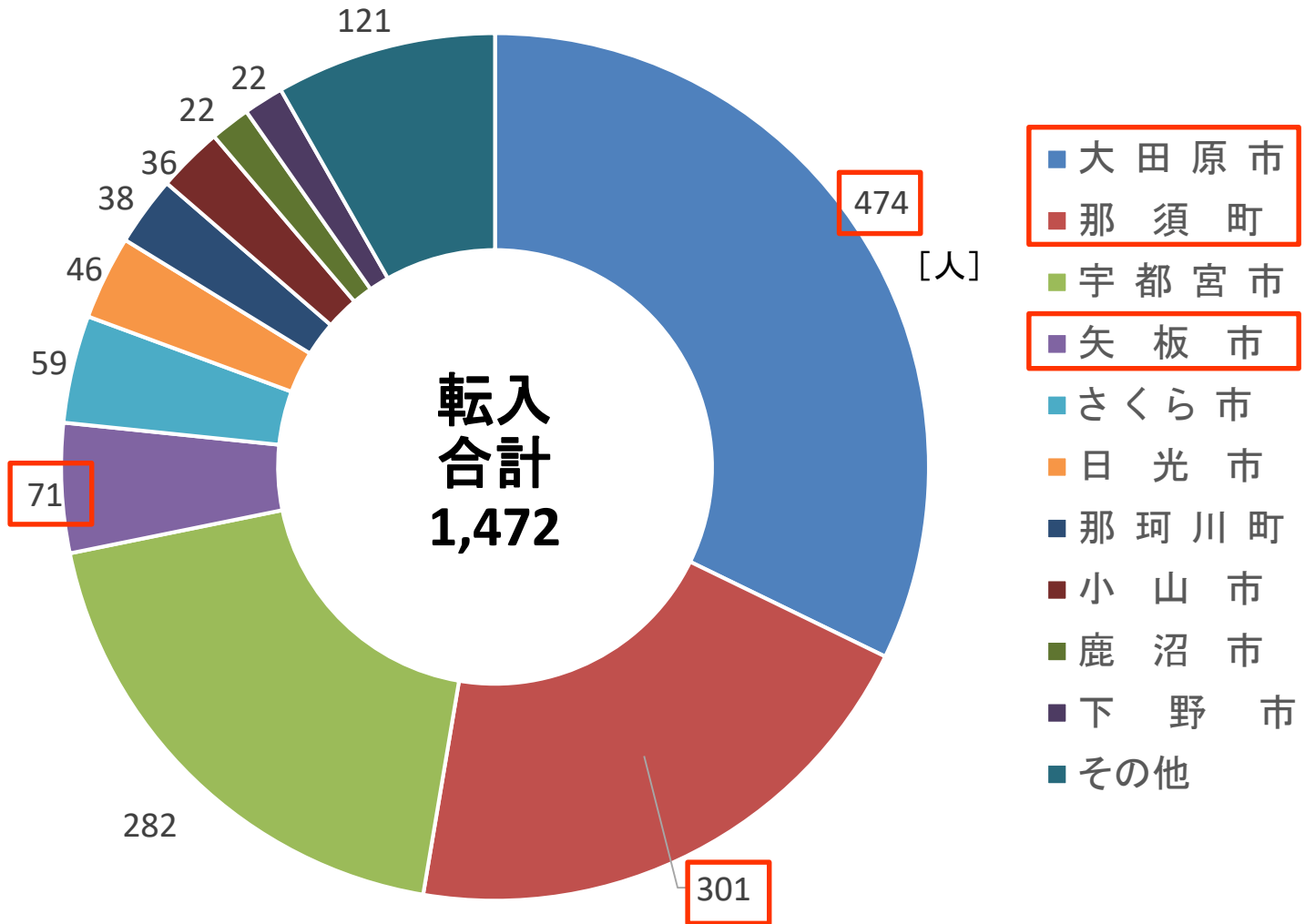


県内自治体への転出は44.6%、1都3県への転出は30.7%

那須塩原市における転入者の移動前住所地Top10(県内自治体単位)

転入

県内

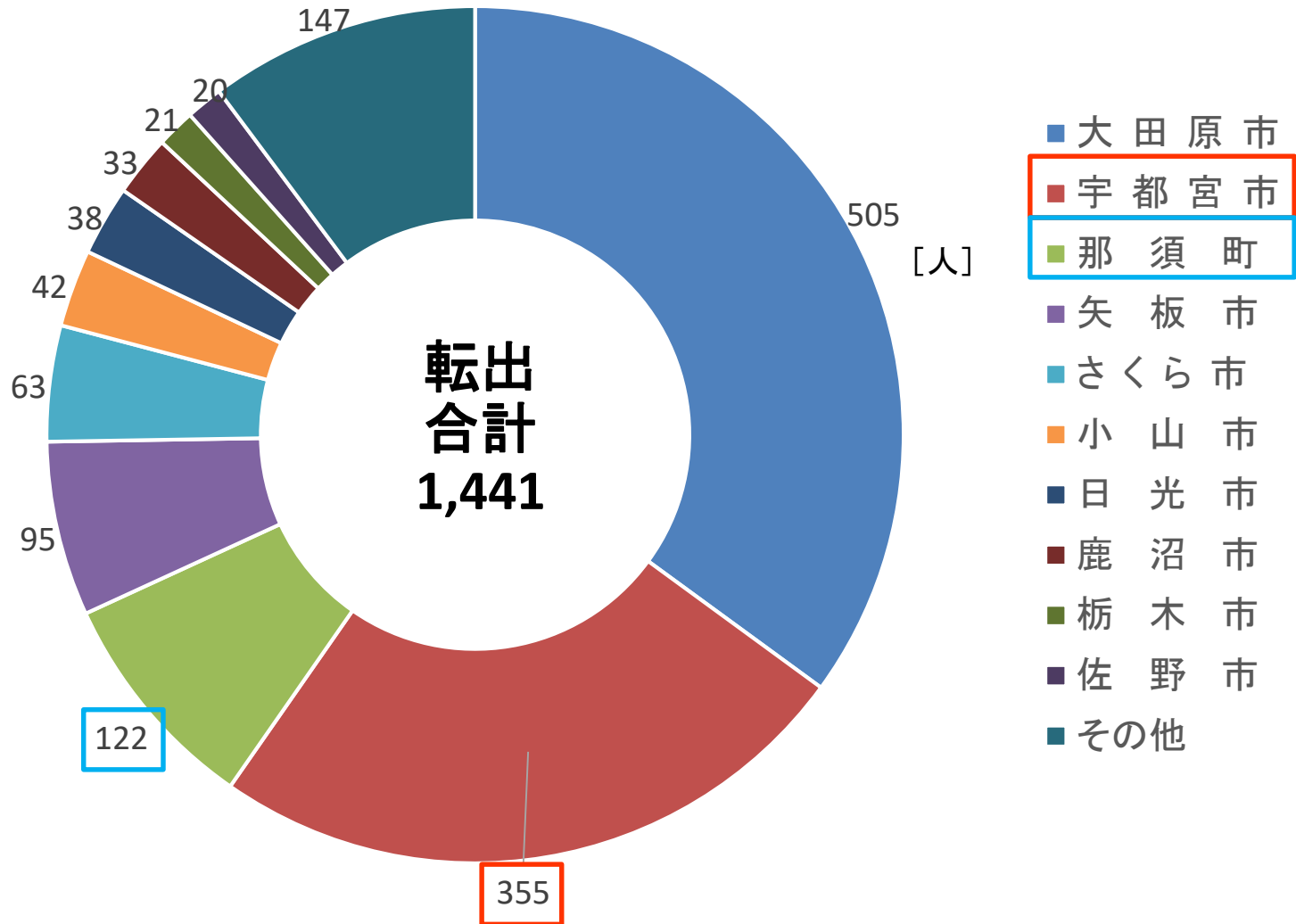


近隣自治体(大田原市、那須町、矢板市)の合計で57.5%を占める。

那須塩原市における転出者の移動後住所地Top10(県内自治体単位)

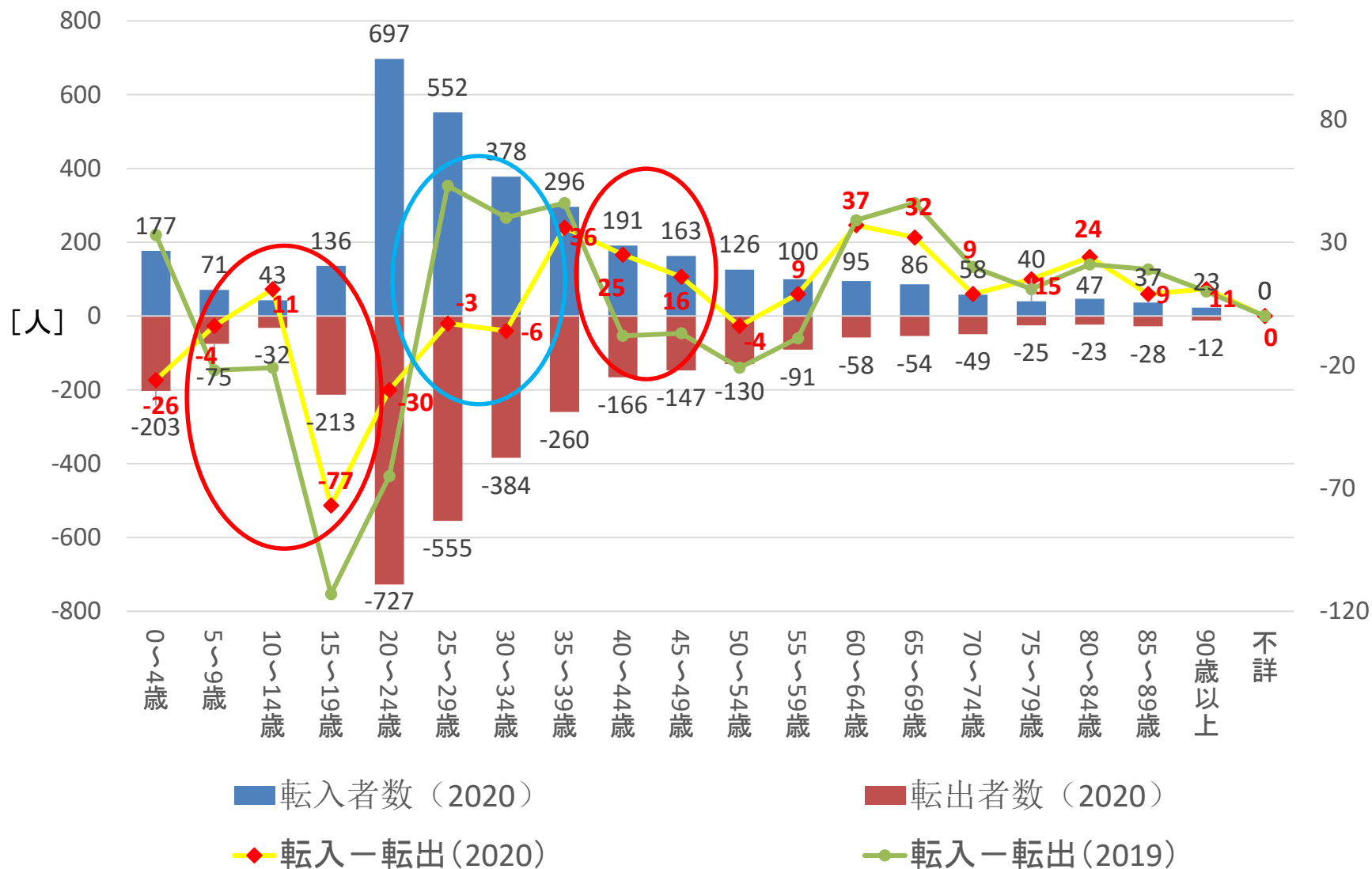
転出

県内



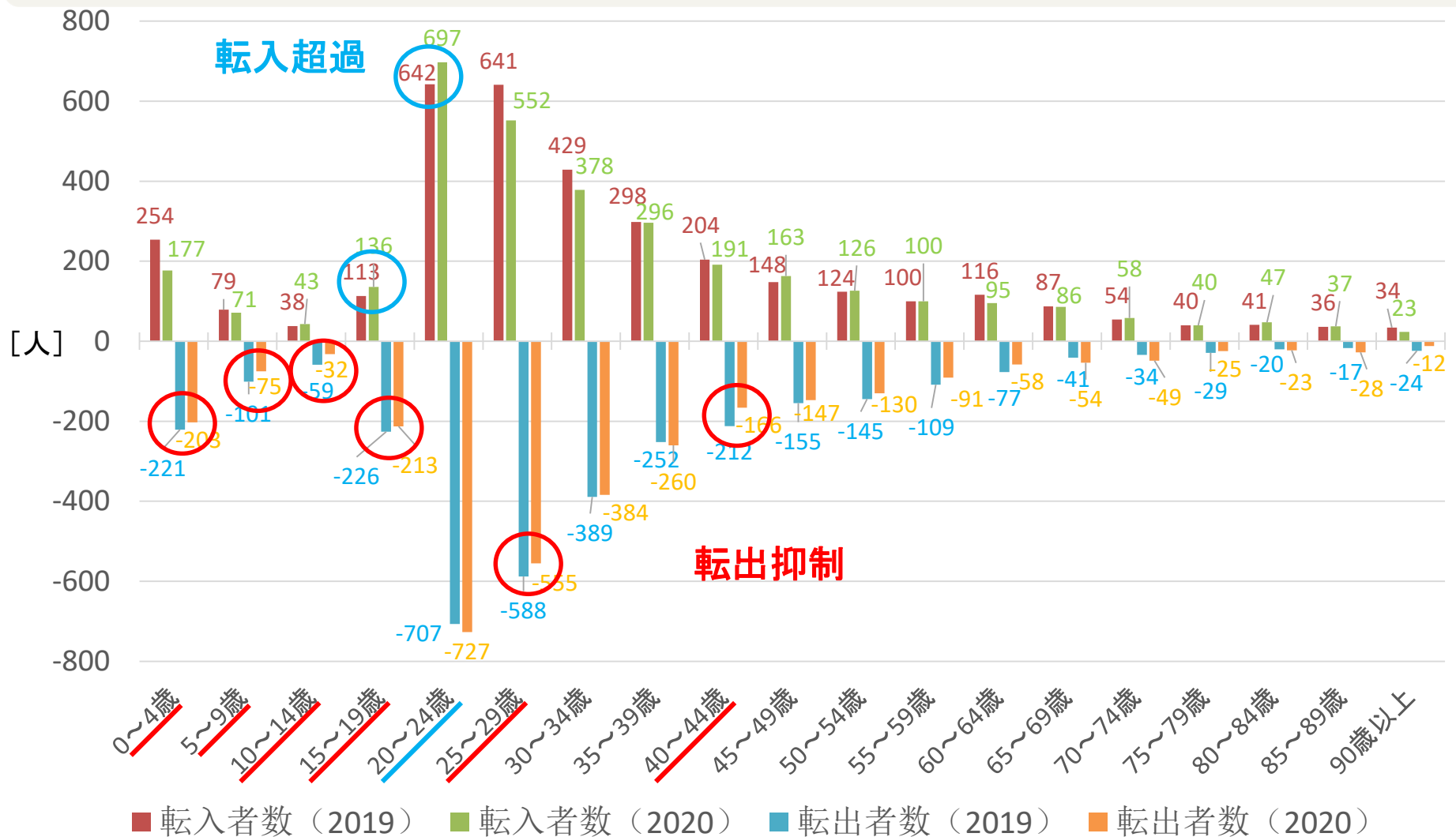
転入に比べ、宇都宮市への転出超過が顕著。那須町は大幅な転入超過。

那須塩原市：年齢階級別転入者・転出者数(全体)2020年



40～49歳、5～19歳の数値が改善。家族単位での社会増の結果と考えられる。

2019年-2020年の転入・転出者数



転入

- 大きく推移は変わらないが、20~24歳が+55人(男42、女13)、25~29歳が-89人(男-36、女-53)、30~34歳が-51人(男-32、女-19)

転出

- 0~19歳で軒並み転出抑制傾向(5歳階級別に-18、-26、-27、-13人)、25~29歳が-33人(男-2、女-31)、40~44歳が-46人(男-19、女-27)

2019年-2020年の転入・転出者数を比較してのまとめ

転入

- 大きく推移は変わらないが、特定の年代において転入数の増減が拡大
- 20～24歳が+55人(男42、女13)
→ 就職によるものと推察されるが、コロナの長期化により、Uターン帰還者が増えたのではないか。
- 0～4歳が-77人(男-40、女-37)、25～29歳が-89人(男-36、女-53)、30～34歳が-51人(男-32、女-19)
→ 家族層と見られる年代で大幅転入減少。

転出

- 全体的に転出抑制傾向がみられる。
- 0～19歳で軒並み転出抑制(5歳階級別に-18、-26、-27、-13人)
→ 子どもの移動は、15～19歳の進学時期を除いて親の移動に依存
→ 親世代が転出しなかったことに伴う影響と考えられる。
- 25～29歳が-33人(男-2、女-31)
→ 男女により大きく偏りが生じている。婚姻に伴う転出が抑制されたのではないか。
- 40～44歳が-46人(男-19、女-27)
→ 転勤等の抑制に伴う影響か。

総括

- 新型コロナウイルス感染症がもたらした人流抑制が影響を与えたものと推察される。
- 全体としてはプラスであるものの、引き続き転入者数増加、転出者抑制の対策が必要である。